

## 第4回会議 議事録

日時： 2020年7月23日（木・祝） 10時00分～12時00分（Web会議）

出席者： 川井 章先生、吉田 雅博先生、阿江 啓介先生、片桐 浩久先生、篠原 信雄先生、  
松本 隆児先生、横山 幸浩先生、中村 哲先生、本多 和典先生、久岡 正典先生、  
曾根 美雪先生、竹原 和宏先生、国定 俊之先生  
事務局 岩田 慎太郎先生

欠席者： 野々村 祝夫先生

## 1. 委員長挨拶

委員長の川井より開会の挨拶がなされた。

## 2. 議事進行確認

事務局から本日の議事進行について説明がなされた。

## 3. 各 CQ の推奨草案の確認

各 CQ 担当委員より推奨草案の資料に基づいて推奨の強さを決めた根拠について説明がなされ、検討が行われた。検討が十分になされた CQ については推奨の強さの投票が行われた。

CQ6：後腹膜肉腫において、補助化学療法の実施は推奨されるか？（本多先生）

- ・エビデンスが少なく、2つの試験の結果はいずれも negative であった。
- ・予想とは反対の結果であった。バイアスがあるとは思いますが、推奨の強さを無理に決めないで「推奨無し」という選択肢もあるのではないかと。
- ・エビデンスが少ない場合には推奨を提示せず、future research question とする方法もある。
- ・外科領域ではほとんど補助化学療法を行っている。病理学的断端評価の結果、術後化学療法を行うこともある。
- ・化学療法を行うかどうかは組織型にもよる。有効な薬剤があるものだけやっている。
- ・UCLA での術前化学療法 55 例の論文 (Donahue, Cancer 2010) では responder は non-responder よりも有意に予後良好との報告あり。TARPSWG のガイドラインでは、「推奨無し」の記載となっている。現在 EORTC の臨床試験として行われている STRASS 2 がこの CQ の回答となる。

<投票結果>棄権 0名

実施しないことを提案（条件付きで推奨）する 2票

推奨無し 10票 ←決定

CQ7：後腹膜肉腫において、補助放射線療法の実施は推奨されるか？（曾根先生）

- ・脂肪肉腫に限定した研究が多い。有害事象発生率は低く、「提案する」とした。介入研究はいずれも単群試験、後方視的観察では比較研究がある。
- ・自施設では外科、骨軟部腫瘍科、放射線治療科など多診療科での検討により放射線の適応を決めているが、確固たる基準はないようである（術前術後についても）。

- ・完全切除が可能であればかけていない、切除縁が厳しい部分には術前照射、術後断端陽性の部分には術後照射を行っている。
- ・子宮肉腫に対し術後放射線治療を行うことはまずない（緩和照射のみ）。
- ・以前は術前化学療法を行っていたが、最近では術前放射線治療を多く行っている。
- ・基本的に放射線治療を行っていない。術前術後についても評価すべきである。
- ・EORTC の STRASS の結果では、全体では RT の優位性は示されていないが、脂肪肉腫に限定すれば有効との結果であった。
- ・ASCO の abstract (JCO) としては出ているので、検討に入れても良いだろう。
- ・脱分化型脂肪肉腫が脂肪肉腫の大部分を占めているので、条件として提案できるのでは。

<投票結果>棄権 0名

実施することを提案（条件付きで推奨）する	9票	←決定
推奨無し	3票	

★ 放射線治療医の意見（SR 委員 井垣先生）に意見を求めることとする

CQ8：後腹膜肉腫において、粒子線療法の実施は推奨されるか？（国定先生）

- ・論文も少なく、陽子線に関する論文ではバイアスも強い。推奨文は重粒子線治療に関して言及し、解説文の中で陽子線につき述べることとした。
- ・5-2~4 は「いいえ」ではないか。  
→<吉田先生>明らかに当てはまる場合のみ「はい」、議論がある時点で「いいえ」  
→すべて「いいえ」とする
- ・本 CQ は、「接する臓器を合併切除すべきか」を含めている
- ・陽子線治療ガイドラインがあるが、そこでは陽子線と通常の X 線との比較が行われており、陽子線の有用性が示されている。
- ・重要度は全生存率が 9、無局所再発生存率を 8 とすべきでは。

<吉田先生より>

その通りです。→変更とする

論文が無ければ後方視的研究同士の比較研究を行うしかないと思われる。

推奨文を重粒子線のみを対象として作成することは許容される。

治療費用が高額であることや、施設がどこにでもあるわけではないことが「5-3. 患者の価値観や好み、負担の確実さ」の判断に影響があると考えられる。

- ・重粒子線の論文は 1 編のみ。
- ・（吸収性）スパーサーの意義についてはどうか。
- ・スパーサーに関する文献があればハンドサーチで入れることを検討いただきたい。
- ・婦人科領域でもスパーサーが要求されることがある。
- ・5-3 は comparator によると思われる。BSC なのか XRT なのか。
- ・IMRT などとの比較となれば「いいえ」だろう。

<投票結果>棄権 0名

実施することを提案（条件付きで推奨）する	9票	←決定
推奨無し	3票	

CQ1：後腹膜腫瘍の診断において、生検の実施は推奨されるか？（久岡先生）

- ・アウトカムの変更（「正診率の向上」から「生存率の向上」）の提案を受け、これに関しての追加のエビデンスをSR委員に依頼
- 送られてきた評価シートを久岡先生に共有し、次回会議で検討を行う

CQ3：後腹膜腫瘍の診断において、MRI や PET-CT の実施は推奨されるか？（竹原先生）

- ・各論文まとめシートのリスク人数、効果指標(種類)、効果指標(値)、信頼区間などをSR委員に依頼
- 送られてきた評価シートを竹原先生に共有し、次回会議で検討を行う

#### 4. その他

次回以降の委員会予定は、メールで調整を行う

以上